

徳川美術館 名品コレクション展示室

令和6年 3月26日(火)~6月9日(日)

展示期間 A:3/26(火)~4/18(木) B:4/19(金)~5/12(日) C:5/14(火)~6/9(日)

【第2展示室】

大名の数寄 - 茶の湯 -

桃山時代に武将の間でも流行した「侘び茶の湯」は、江戸時代には「御教・春屋」の接待として、公式行事の一部に組み入れられた。こうして固定された茶の湯は、「侘び茶の湯」の持っていた美や新たな価値観をうち立てて行く自由な創造の精神を失って武家故実となり、格式行事と化した。大名は邸に茶室を設け、将軍の「御成」をはじめ、晴の行事に備えた。茶の湯道具もまた格式道具となった。桃山時代に武将や上層町衆や数寄者が持っていた道具の大半は、江戸時代には将軍や大名の秘蔵品となり、「名物」の道具は、時に一国一城にもあたるとされ、その所持、非所持が家の格を表すとまで評された。

No.	名	称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
猿面茶室						
1	和歌懐紙	「砌橘」	正徹筆	室町	15	С
2	和歌懐紙	「おなしくは」	後西天皇筆 梅小路(尾張家3代綱誠側室)所持	江戸	17	В
3	和歌懐紙	「寄松祝」	徳川宗睦(尾張家9代)筆	江戸	18	Α
4	唐銅獣耳	中蕪花生		元-明	14-15	
5	古芦屋擂	座釜		室町	15	
6	染付花蝶	文獅子耳水指		明-清	17	
7	瀬戸野田	手茶入 銘 菖蒲草	東本願寺伝来 岡谷家寄贈	室町	16	
8	安楽庵策	伝竹茶杓 銘 しぼり	松江松平家伝来 岡谷家寄贈	江戸	17	AB
9	徳川綱誠	竹茶杓		江戸	17	С
10	珠光青磁	茶碗 銘 荷葉		元	14	
11	和漢朗詠	集切 夏 更衣	伝藤原行成筆 岡谷家寄贈	平安	11	В
12	細川幽斎	書状 上林久茂宛 卯月十二	:日	桃山	16-17	Α
13	河島皇子	像	徳川義直(尾張家初代)画賛	江戸	17	С
14	柳鷺図			元-明	14-15	Α
15	破墨山水	図	徳川光友(尾張家2代)筆·飛鳥井雅庸賛 乾徳寺伝来	江戸	17	С
16	釣瓶藤燕	之図	英一蝶筆 個人蔵	江戸	17	В
17	伊賀耳付	花生	岡谷家寄贈	桃山-江戸	16-17	
18	青磁八卦	文水指	徳川斉荘(尾張家12代)所持	元-明	14-15	
19	銀葵紋霰	水指	徳川斉温(尾張家11代)所持	江戸	19	
20	島物茶壺	銘 曾路里		東南アジア	16	
21	唐物肩衝	茶入 銘 宗無 大名物	山岡宗無・佐竹義宣・義隆・徳川家光(3代将軍)・ 綱吉(5代将軍)・徳川吉通(尾張家4代)ほか所持	南宋-元	13-14	
22	萩焼鶴首	茶入		江戸	17	
23	灰被天目	銘 玉潤	伝千利休朱添書	元-明	14-15	
24	白天目		南禅寺金地院伝来·徳川家綱(4代将軍)所持	朝鮮王朝	16	
25	志野竹の	子文筒茶碗 歌銘 玉川	上田安三郎·関戸家旧蔵 岡谷家寄贈	桃山	16-17	

【第2展示室の見どころ -猿面茶室-】

第2展示室では名古屋城二之丸御殿にあった「猿面茶室」を復元している。待庵・如庵と並んで茶室として最も古く注目すべき遺構で、国宝にも指定されていたが、昭和20年(1945)、戦災焼失した。もとは清須城内に営まれていたが、慶長15年(1610)、名古屋城内に移築され、上使の接待場にあてられていたと伝える。明治に至って城内の建築物が払い下げられ、のちに末森入舟山(現・千種区見附町)に移築したが、明治13年(1880)、名古屋博物館(後の愛知県商品陳列館)にこれを寄付、さらに昭和8年(1933)、鶴舞公園内に移設された。

